

## 平成26年度「大気環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
大阪府		キタダ ヒロアキ 北田 博昭	<p>交通環境保全行政を担う特殊公害課の立ち上げ時(昭和47年)より、自動車排ガス中の一酸化炭素の街頭検査、自動車・航空機・鉄軌道騒音のレベルと苦情発生頻度との関係の解析の実施等、府における交通環境対策の基礎を築き上げたほか、全国の自治体に先駆けてサウンドスケープの概念を取り入れた音に関する環境教育についても取り組んだ。</p> <p>また、国に先駆けて大気汚染物質の総量規制の概念を取り入れた大阪府環境管理計画(BIGPLAN)(昭和48年)をはじめ、その後の府環境総合計画についても策定を手がけるなど、大阪府の大気環境保全・交通環境保全行政をリードした。</p>
神戸市		シマ マサユキ 島 正之	<p>多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関である「神戸市環境影響評価審査会」の委員(平成19年～)として、主に公衆衛生及び大気環境の分野を中心に環境影響評価制度の対象事業の審査、事後調査、環境影響評価制度の見直し等について厳正調査審議をしている。</p> <p>また、環境影響評価制度の対象事業以外の個別事業や神戸市の大気の常時監視等に関してもご指導をいただくなど、大気汚染に関する深い理解と幅広い学識を基に、神戸市の環境行政に対して、神戸市域の大気環境の改善、環境影響評価の技術・精度の向上などに関する有益かつ先見的な助言をしてもらっている。</p>
長野県		サツマ バヤシヒカル 薩摩林 光	<p>長年にわたり環境保全研究所に勤務し、大気環境に関する調査・研究に従事し、他にも放射性物質水準調査に取り組んだ。特に大気環境分野では、大気汚染物質の長距離輸送、光化学オキシダントなどを中心に研究した。</p> <p>中でも東京湾沿岸から中部山岳地域へ大気汚染物質が長距離輸送される際の物質変化について、主に有機化合物の挙動を中心に解析して多く成果を上げ、大気汚染対策に大きく貢献した。また、関連して酸性雨調査についてもその中心を担い、得られた成果は現在の研究に引き継がれている。</p>
大分県		カジワラ タツオ 梶原 達夫	<p>昭和61年にハレー彗星の写真を撮影し、この頃より本格的に天体の写真撮影を始めた。平成8年には日田市有田町に私立天文台を建設し、一般公開を始めた。また、平成10～24年まで日田市立博物館の協議会委員を務めていた。天文分野において専門的な知識を有していることから、毎年公民館や学校の講演会で講師として招かれており、星空観察会等を通じて大気環境保全の知識普及に貢献している。</p> <p>近年問題となっている微小粒子状物質(PM2.5)をはじめとする大気汚染物質の影響により星空の見え方に変化が生じていることから星空観察という身近な方法を通じて、大気環境保全の重要性について情報発信している。また、学校・博物館と連携し、子供たちに対して星空観察会を開催し、大気環境状態を子供と調べ、大気環境保全の重要性を考えてもらう場を設けることで大気保全に対する関心や意識の向上に貢献している。</p>
山口県		ホウハラ タツヤ 芳原 達也	<p>長年にわたり周南市環境審議会委員として、大気関係のみならず、複雑多岐にわたる環境問題に対し助言、指導され、地域の環境保全の推進に大きく貢献された。</p> <p>また、山口大学在学中には、大気汚染研究等を通しての環境教育にも尽力された。</p>

団体 0

個人 5

合計 5